音楽科学習指導案

日　時　平成23年５月27日（金）　第１校時
対　象　３年３組（男子20名　女子20名　計40名）
指導者　教　諭　　福　原　美　保

１　題　材　　「ミュージカルを楽しもう」

２　指導目標

(1) ミュージカルの舞台表現の特徴に関心をもち，鑑賞する学習に主体的に取り組ませる。

(2) 音色，リズム，旋律，構成などミュージカルの音楽の特徴を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，要素や構造と曲想とのかかわり，ミュージカルの背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解し，解釈したり価値を考えて，鑑賞させる。

３　題材の評価規準

(1) ミュージカルの舞台表現の特徴に関心をもち，鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。

(2) 音色，リズム，旋律，構成などミュージカルの音楽の特徴を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，要素や構造と曲想とのかかわり，ミュージカルの背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して，解釈したり価値を考えたりし，鑑賞している。

４　教　材

「ミュージカル　キャッツ」

５　題材について

(1) 題材設定の理由

本題材は中学校学習指導要領，第２学年及び第３学年の鑑賞の内容（１）イ音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して，鑑賞すること，ウ我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解して，鑑賞することを目指して設定した。

本学級の生徒は２年生前期で歌劇，後期で歌舞伎の学習に取り組んだ。それぞれ発祥や演奏方法に違いはあるが，「総合芸術」として共通の部分があるということを理解できた。

そこでさらに同じ「舞台表現」としてミュージカルの魅力を伝えるために本題材に取り組むこととした。「歌劇」や「歌舞伎」の特徴や演奏方法と比べながら，「ミュージカル」の特徴や演奏方法などを感じ取れると考え，本題材を設定した。

(2) 教材について

ミュージカルは，歌と踊りと芝居が一体となった大衆演劇である。オペラとの違いは，オペラ独特のベルカント唱法をあまり使わないことや，ポップスやロック，ジャズ，民族音楽など様々なジャンルの音楽が使われることやダンスが重視されることである。

ミュージカルは，ヨーロッパで行われていたオペレッタ（喜歌劇）などの影響を受けながら19世紀末のアメリカで発達した。特にニューヨークのマンハッタンにある大通りのブロードウェイ付近には劇場が密集し，この地区には作曲家や脚本家などが自然と集まり，優れたミュージカルが多く生み出された。

今回取り扱うミュージカル「キャッツ」はT.Sエリオットの詩を基に1981年に作られている。都会のゴミ捨て場に集まる無数の猫が主役の作品で，ミュージカル最高傑作とも評される有名な作品である。劇中で歌われる「メモリー」が印象的である。

舞台表現としての音楽の広がりを感じさせることができ，またオペラや歌舞伎と同じく文学や演劇，美術などさまざまな文化とつながる総合芸術として学ぶことのできる教材である。

(3) 生徒の実態

本学級の生徒は，明るく意欲的に授業に取り組んでいる。朝と帰りの学級合唱も充実していて，積極的に練習に取り組んでいる。

鑑賞活動では，２年前期にオペラ「アイーダ」の鑑賞を行った。登場人物の声での表現の工夫やステージの華やかさなどオペラの特徴をとらえ，意欲的に鑑賞することができた。また後期は「オペラ」と比較鑑賞を行い，「歌舞伎」の特徴をとらえることができ，日本の伝統芸能に対する関心を高めることができた。

しかし音楽を聴いたとき，感覚的に音楽の感想を言うことはできるが，音楽を形づくっている要素や構造と曲想のかかわりを理解して聴いたり，言葉に表して音楽のよさを伝えるというところまでは至っていない。対象となる音楽が自分にとってどのような価値があるのか，客観的な理由をあげながら言葉で表すことで，生徒の曲に対する理解も深まり，音楽のよさや美しさを味わうことができ，さらに音楽表現も広がっていくと考えられる。

(4) 指導にあたって

生徒の実態を踏まえ，本題材を扱うにあたり，次のようなことに留意して学習を進めていきたい。

ア　鑑賞活動を通して，音楽のよさや美しさを感じ取る力を高め，幅広い鑑賞の仕方を身につけさせ，新たな音楽に取り組む意欲を育てたい。

イ　比較鑑賞を通して，歌い方や楽器の響きなど音楽表現の特徴に気づかせ，その効果を感じ取らせたい。

ウ　ミュージカルと他の芸術とのかかわりや表現の特徴を聴き取り，解釈させ，自分の言葉で説明させたい。

6　指導計画（全３時間）

時	主な学習活動	教　材	単位時間における評価規準		
			音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力	共通事項
1本時	1　ミュージカル「キャッツ」の一場面を鑑賞する。 2　今までの舞台表現の学習を生かして，ミュージカルの特徴をとらえる。	ミュージカル　キャッツ	・　ミュージカルの特徴とその背景となる文化・歴史や他の芸術との関連に関心をもち，鑑賞する学習に主体的に取り組んでいる。	・　音楽を形づくっている要素（音色，リズム，速度，旋律，構成）を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，ミュージカルの特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連づけて理解して，解釈したり価値を考えたりし，鑑賞している。	音色 リズム 速度 旋律 構成
2	1　ミュージカル「キャッツ」をあらすじにそって鑑賞する。 2　ミュージカルの場面や感情に合った音楽的な特徴をまとめる。		・　舞台表現の特徴と音楽の多様性に関心をもち，鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	・　音楽を形づくっている要素（音色，リズム，速度，旋律，構成）を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，ミュージカルの特徴から舞台表現の多様性を理解して，解釈したり価値を考えたりし，鑑賞している。	

7　本時の実際（１／２）

(1)　目標

ア　ミュージカルの特徴とその背景となる文化・歴史や他の芸術との関連に関心をもち，鑑賞する学習に主体的に取り組ませる。

イ　音楽を形づくっている要素（音色，リズム，速度，旋律，構成）を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，ミュージカルの特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連づけて理解して，解釈したり価値を考えたりし，鑑賞させる。

(2)　評価規準

ア　ミュージカルの特徴とその背景となる文化・歴史や他の芸術との関連に関心をもち，鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。

イ　音楽を形づくっている要素（音色，リズム，速度，旋律，構成）を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，ミュージカルの特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連づけて理解して，解釈したり価値を考えたりし，鑑賞している。

(3)　展開

時間	主な学習活動	形態	指導上の留意点（◆は評価の観点）
10分	1　代表的なミュージカルの曲を聴く。	一斉	○　ミュージカルであるということは知らせずに聴かせる。
2分	2　本時の学習目標について知る。 **これまでの舞台表現の学習を生かしてミュージカルの特徴をとらえよう！**	一斉	○　本時の目標と授業の流れを理解させる。
25分	3　ミュージカル「キャッツ」の一部を鑑賞して，ミュージカルの特徴をつかむ。 ・　今まで学習した舞台表現との相違点を考えながら鑑賞して，ミュージカルの特徴をつかむ。 ・　これまでの舞台表現との相違点をワークシートに書き出し班で意見交換を行う。班で出た意見を短冊に書いて黒板に貼る。 ＜予想される意見＞ 相違点：セリフが多い，衣装が特徴的，伴奏がある，舞台が華やか，メイクが特殊，ダンスが多い，歌い方がポップス系	個人 グループ	○　今までの舞台表現の学習（歌劇・歌舞伎・バレエ）を振り返って，ミュージカルの特徴を考えさせる。 個人→班 発：「楽器や歌やセリフなど～な特徴があったけど，この曲ではどんな違いがあるかな」 **教科論　6－（1）　ウ** **客観的な思考・見方をさせる指導の工夫** **・比較鑑賞** **教科論　6－（2）** **音楽理解を深めさせる指導の工夫** **・視点を与えて分析的に聴かせる** ○　班から出た意見を要素ごとに分類する。 **教科論　6－（3）　ア** **音楽的思考のプロセスをみとる工夫** **・ワークシートの工夫** ◆　評価　ア　イ
10分	4　ミュージカル「キャッツ」を鑑賞して，出しあったミュージカルの特徴を確認する。	個人	○　ミュージカルの特徴を確かめながら鑑賞させる。 ◆　評価　ア　イ
3分	5　本時のまとめをし，次時の活動の予告を聞く。	一斉	○　舞台表現をするためにはいろいろな方法があるということを確認して終わる。